

議 事 録

会 議	第5回トラック輸送における取引環境・労働時間改善高知県地方協議会
開 催 日 時	平成29年3月15日(水) 10:30~12:00
開 催 場 所	高知県トラック会館3階 大会議室
出 席 者	配席図のとおり(別紙)
事 務 局	高知運輸支局、高知労働局、一般社団法人高知県トラック協会
会 議 内 容	議事次第のとおり(別紙)
I. 開会	(事務局の司会進行のもと、定刻どおり開会)
事務局	それでは、横川座長、以降の進行をよろしくお願いいたします。
横川座長	それでは、議事に入らせていただきますが、その前に本日の議事の進め方につきましては、次の通りといたしますので、あらかじめご留意願います。議題1について日本PMIコンサルティング(株)小坂社長から説明いただいた後、各委員からご意見をお伺いいたします。その後議題2について高知運輸支局から説明していただいた後、各委員からご意見をお伺いしたいと思います。
	それでは議事に入ります。
	まず、議題1。「平成28年度パイロット事業の実施結果について」日本PMIコンサルティング(株)小坂課長から説明をお願いいたします。
II. 議題1	
小坂社長	(「議題1.平成28年度パイロット事業の実施結果について」説明)
横川座長	ありがとうございました。それでは議題1につきまして、ご意見ご質問などございましたら、ご発言をお願いします。
森本委員	たとえばデポ化をすることもできたのではないかと。長い距離を大量に運んで、短距離を配送することで労働時間の短縮につながると思う。 クライアントによる荷物の平準化も大事ですが、運び方によってアイテム数を減すことも普通にできるのではと思いながら聞いていたが、そのようなことは無理でしたか。
小坂社長	デポ化をし、高知市内にある程度荷物を集めて、そこから払い出しをしていく、こういった意見も発荷主側からあった。今回はパイロット事業として非常に短期間の短いものだった。デポ化を実証実験でやるとしたら半年から1年ぐらいの時間がかかる、ということで今回は見送りをさせていただいた。
森本委員	コストだけではなく、コストを下げるによりトータルで考えるとパレットの輸送も範疇に入ってくる。全部をやるとだめなんですけど、大量に運ぶアイテム分は車単位で運ぶことによりコストが削減できる。ク

	<p>ライアントとすれば、その部分がコストの削減ができる。パレットで輸送しようとする分に関してはコストは上がります。トータルで今のコストを考えると、ピッキング作業についてはわからないが、労働時間という部分では運送事業者さんは少なくなるはず。時間短縮というのは直送するのが一番早い、二次配送というのはトータルコストで考えると労働時間は割ることもできるし、削減できるような気がします。</p>
座長	<p>この短期間のパイロット事業から我々が何を学ぶのか。この事業を継続することによるメリット、運転手の熟練効果がもっと上がっていく可能性もあります。</p>
小坂社長	<p>今回の場合は、発荷主側に確実にメリットがありまして、ぜひ今回のテスト的な試行を広めていきたいとの流れも想定されている。他の着荷主さんが協力してくれるかについては、大きな課題になるかとは思われます。営業側の販売方法の見直しも含めて取り組んでもらえればと思っています。</p>
座長	<p>ありがとうございました。 それでは、議題2の「平成29年度パイロット事業の進め方について」高知運輸支局から説明をお願いします。</p>
高知運輸支局	<p>(議題2「平成29年度パイロット事業の進め方について」説明)</p>
座長	<p>ありがとうございました。 それでは議題2につきまして、ご意見がございましたら、ご発言をお願いいたします。 平成30年度には高知県版のガイドラインを作成することとなります。それに反映されるような事業をしていかなければならない。今回のパイロット事業を継続していくか、あるいは新しい集団でやっていくか、さまざまなことが考えられる。</p>
岸委員	<p>みなさん忙しい方々が選任されており、第5回というスケジュールはいかなものかとは思っている。</p>
谷山委員	<p>対象集団の運送会社の意見が聞けたらよかったと思っている。</p>
座長	<p>もう少し少人数で具体的な話を聞けるような小回りの利くワーキンググループを作るのもいいと思う。</p>
岸委員	<p>実務者の入った生の意見を聞くのもいいのでは。</p>
竹下委員	<p>ドライバーの確保ができない状態になってきている。 高速道路の割引を昼も夜も同じ割引にしてほしい。運転手には早く家に帰れるようにしてあげたい。今は運転手がどうしても下道を走ることと</p>

なり、また12時を回ってから高速道路を降りるなど、どうしても労働時間が長くなる。東京などまで走れる状況ではない。私は、こんなことをするよりも政府に働きかけて高速道路の24時間割引を早くしてもらった方がいいと思っている。そうすれば時間外は絶対に減っていく。これから10年もすればドライバーは本当にいなくなる。

森本委員

高速道路の割引制度がだめだと思う。
夜中の12時～4時までの深夜割引に問題がある。荷主にコストアップを勧めていくことは不可能である。高知県はローカルしかないのewithゆる関西、東京などまで距離が長い。製造メーカーも苦しい。高知で作ったものを中央で販売する場合のコストの差が販売する商品の単位の違いになっている。
離れている分、九州も北海道も一緒だが、物流の役割は結構大きいんですが、できるだけ安く運んでいくということができないと、高知県の産業はどんどん衰退していくと思う。
高知県は園芸もそうですが、労働条件として守っていくのは多分大変だと思う。深夜割引きの12時から4時までというのがあり、東京から高知で3割違ってくると、1回の運行で何万円も違ってくるとなると、労働時間を短くすることを優先するのか収益を優先するのか。
もちろんコンプライアンスを守ることを優先しなければならないのだが、全部の物流会社がそれをするのは難しい。コンプライアンスを無視しても安くできますという所が出てくるので、その部分はみんなが平等にできるようにしてもらわないと、ちゃんとやっている所ができなくなって、ちゃんとやっていないところが行けるぞということが起こってくる可能性もあるのかと思っている。
まともにやっていないところが低コストができるというのは本末転倒だと思っている。24時間同じ割引でやってほしい。全国的にみなさんが思っていると思います。

座長

こういうような意見が出せる場。コンプライアンスを守らない人が出てきている。ではどうしたらいいのかということになりますが、このような意見が出せるような会議にしていきたいと思っています。

労働局長

先ほどから竹下委員、森本委員からもいい意見があって、根本的にやはり人手不足という状況となっている。他の業種も同じだがそんな中で働き方改革をやっていかなければならない。単体で1社、1つの地域だけでやるのではなく、社会全体でやらなければならない。今はインフラでの割引も料金も含めて、これについては国交省も考えていただきたいのですが、あとはコンビニとか宅配もそうですが、便利さを受ける人たちも働いている人たちのことを考えてもらいたい。大きなことを言えばそういう話だと思う。今回のパイロット事業について言えば、せっかくこのようにやった事業でいろんな問題点が出た。前半のやりとりでも、物流の話でもすごくテクニカル、難しい話、専門性のある話、こういう話を世間に広めていったらいい。こういうことをやってみたら問題が出てきた。先ほど全国の事例の紹介もあったが、こういうことも広めていけばいい。

	<p>こういう視野に立って来年のパイロット事業のことを考えていけばいい。こういう大きなことを念頭にやっていけばいい。とっかかりとしては非常にいい話をしてもらったと私は思っている。</p>
座長	<p>宅配の話も出たが、みなさんは届いて当然と思っている。ただで運送してもらっている意識が消費者の中にもあるが、働いている人たちの立場も考えていただきたいと思っている。これらのことを発信していける場にしていければいいと思っている。どうやって労働者を確保していくかという話もある。</p>
岸委員	<p>全ト連の会議があるが、大手と中小の温度差がものすごくある。大手は実運送は少なく、ほとんど下請を使ってやっている。全国の会長の話を聞いても、大手の考えで進んでしまい地方の話はなかなか聞いてもらえないと言っていました。</p>
座長	<p>今回出てきた意見も含めて現在のパイロット事業を継続して続けてもらい、経過を見守りつつ、また新しい対象集団がもしあるのであれば事務局にお願いして本日の会議は終わりにさせていただきたいと思います。</p>
Ⅲ・閉会 事務局	<p>熱心なご議論をいただきまことにありがとうございました。 また、次回の開催は5月以降を予定しております。本日は誠にありがとうございました。</p>